

品目：こまつな

環境こだわり農産物の基準(5割以下の基準)

化学合成農薬(延べ使用成分数) 3成分以下(秋冬)

化学肥料(窒素分量) 5kg/10a以内(秋冬)

技術体系例 こまつな

生育ステージ 防除時期	播種			生育期間中																	
	作付体系	7~8月	6~9月	播種時	全般						生育初期		生育中期		生育後期						
防除方法・使用資材・薬剤名等	ほ場ローテーション	太陽熱消毒	ハウス内の蒸し込み	殺虫剤	雨よけ被覆	紫外線カットフィルム	捕殺	病害株の引き抜き	フェロモントラップ	性フェロモン(交信攪乱)	電撃殺虫機	黄色粘着板	黄色灯	不織布・防虫ネット	殺虫剤	殺虫剤	B T 剤	殺菌剤	B T 剤	殺虫剤	
立枯性病害	★	★	★					★													
白さび病																		●			
根こぶ病	★	★		★				★													
ヨトウムシ							★						★	★	●	★				★	
ハスモンヨトウ							★	★					★	★			★			★	
アオムシ							★							★	●	★				★	
コナガ									★	★				★	●	★				★	●
ハイマダラノメイガ													★	★	●						
マメハモグリバエ			★		★							★	★								
アブラムシ類				●	★									★	●						
キスジノミハムシ			★	●	★									★	●						
ネキリムシ類			★			★								★							
(例)使用農薬				スタークル粒剤					フェロデインSL	コナガコン					モスピラン水溶剤	スピノエース顆粒水和剤	ゼンターリ顆粒水和剤	ランマンフロアブル	ゼンターリ顆粒水和剤	アフアーム乳剤	
化学合成農薬成分数				1											1		(1)				1

注) ●: 薬剤防除対象病害虫、★: 天然資材または耕種的手法

農薬の登録は随時変更があるので、農薬の使用にあたっては、必ず農薬ラベルを確認し適正に使用する。

* 印のものは、登録の対象害虫等が限られているので登録を確認する。

ほ場周辺は除草剤を使用せず、草刈機による管理またはグランドカバープランツを植栽する。

病気 **苗立枯病** (なえたちがれびょう)

発生しやすい時期

8月下旬頃～9月中旬頃

原因（発生要因）

- ・ 土にいるカビにより発生します。



対策（減農薬技術）

- ・ 太陽熱消毒などの土壌消毒を行います。
- ・ 生育初期までは水をやり過ぎないようにします。
- ・ 発病した株は早めに抜き取ります。
- ・ 未熟なたい肥は病気を増やしますので、完熟した堆肥を使います。

病気 **白さび病**

発生しやすい時期

5月頃～7月頃

10月頃～11月頃

原因（発生要因）

- ・ 病気にかかった株からうつります。
- ・ 12℃前後で湿気の多いときにでやすい病気です。



白さび病の病斑

対策（減農薬技術）

- ・ 排水の悪いほ場では暗きよや排水溝を作ってしっかり排水します。
- ・ 発病した株は早めに抜き取ります。
- ・ 病気の出たほ場では、被害にあった茎や葉を残さず集めて、焼却します。

害虫 **コナガ**



コナガの成虫（みずな）



コナガの蛹

発生しやすい時期

5月頃～7月頃

10月頃～11月頃

原因（発生要因）

- ・ 成虫が飛んできて、葉に卵を点々と産みつけます。
- ・ 卵からかえった幼虫が葉の表皮を残して葉の裏側を食べます。

対策（減農薬技術）

- ・ 防虫ネットなどで産卵できないようにします。
- ・ 定植するときに、粒剤を使うことで、農薬の散布回数を減らすことができます。
- ・ BT剤（化学合成農薬として数えない農薬）を利用します。
- ・ アブラナ科野菜の収穫後には残り株を速やかに処分します。